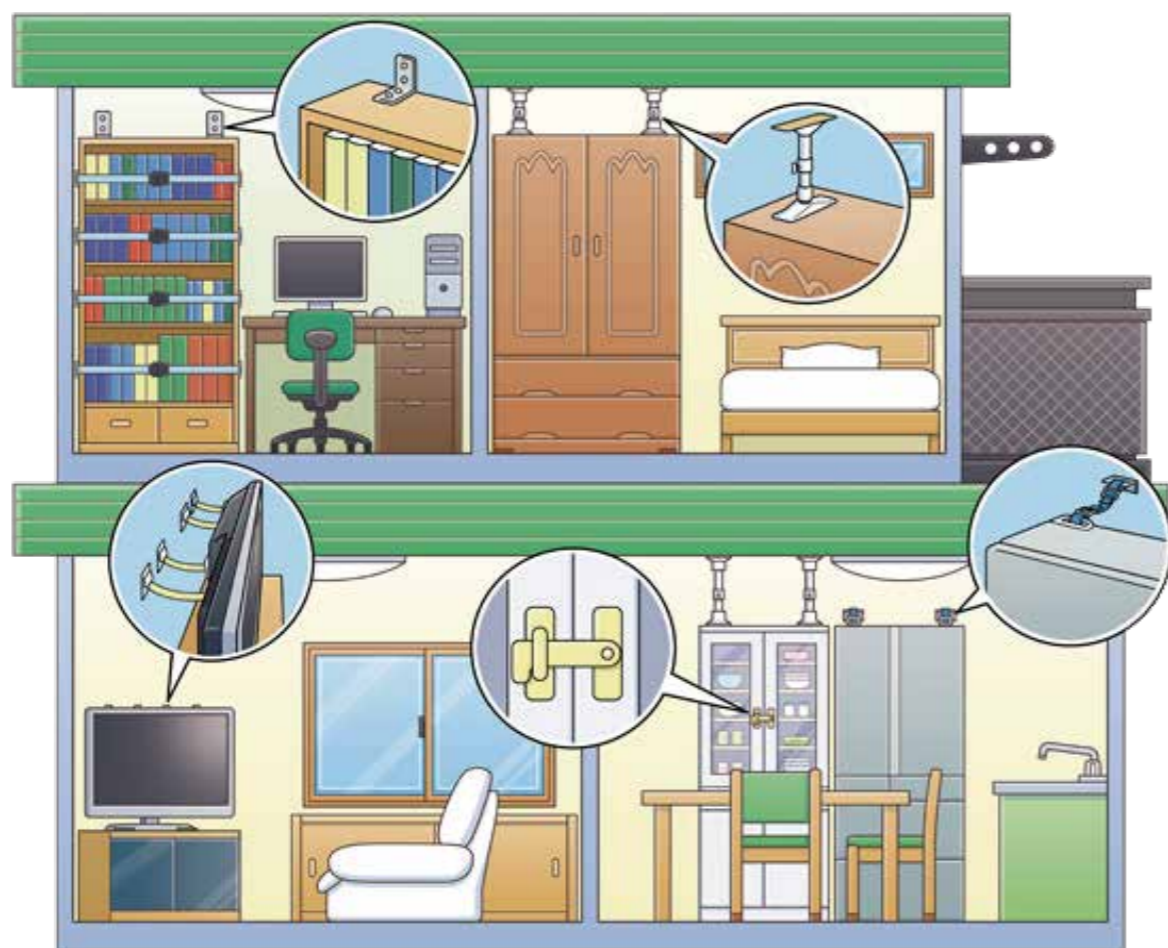


地震でけがをしないために

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などでは、多くの方が倒れてきた家具の下敷きになって亡くなったり、大けがをしました。大地震が発生したときには「家具は必ず倒れるもの」と考えて、転倒防止対策を講じておく必要があります。

- 家具が転倒しないよう、家具は壁に固定しましょう
- 寝室や子ども部屋には、できるだけ家具を置かないようにしましょう。
- 置く場合も、なるべく背の低い家具にするとともに、倒れた時に出入り口をふさいだりしないよう、家具の向きや配置を工夫しましょう。
- 手の届くところに、懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを備えておきましょう。



通電火災って何ですか？

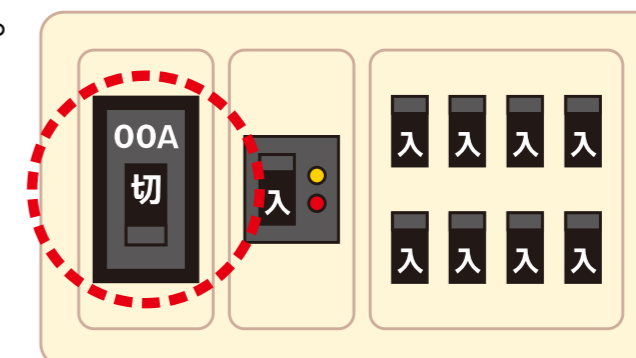
通電火災とは

地震による停電の後、電気が復旧した時に起きる火災のことです。
大地震が発生すると・・・
送電線の断絶などが原因で停電が発生することがあります。

その後、数時間から数日後に電気の供給が回復しますが

- 倒れた電気器具(ヒータ、電気を使用する暖房器具など)
- 破損した電気配線に通電した時に火災が発生します。
- ガスが漏れているところで通電し、発火する場合があります。

これらを『通電火災』と言います。
阪神・淡路大震災では、原因が特定された建物火災の約6割が通電火災によるものでした。通電火災は家屋の全壊や半壊で住民が避難し、誰もいなくなったところで電気が復旧して起こります。



通電火災の予防と対策

避難するときは**分電盤（ブレーカー）を必ず遮断する**

<日頃から注意すること>

- ・ヒーターなど電気を使用する暖房器具のそばに燃えるものを絶対に置かない。
- ・使わない電気器具のコンセントは抜いておく習慣を身につける。
- ・分電盤（ブレーカー）の位置を憶えておく。

<地震発生後、安全を確保してから行うこと>

- ・使用中の電気器具のスイッチを切り、コンセントを抜いておく。
- ・石油ストーブの火が消えているか、確認する。
- ・電気器具を再使用する前に、配線器具やガス漏れの安全確認をする。